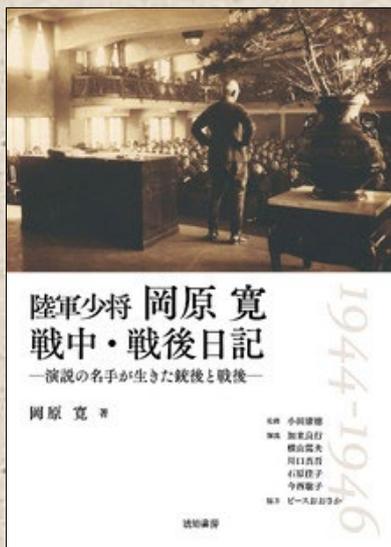


陸軍少将岡原寛 戦中・戦後日記

—演説の名手が生きた銃後と戦後—



戦時下通算千回を越す演説を重ねた軍人と銃後の関わり、また敗戦後の思想と暮らしを伝える稀有な記録

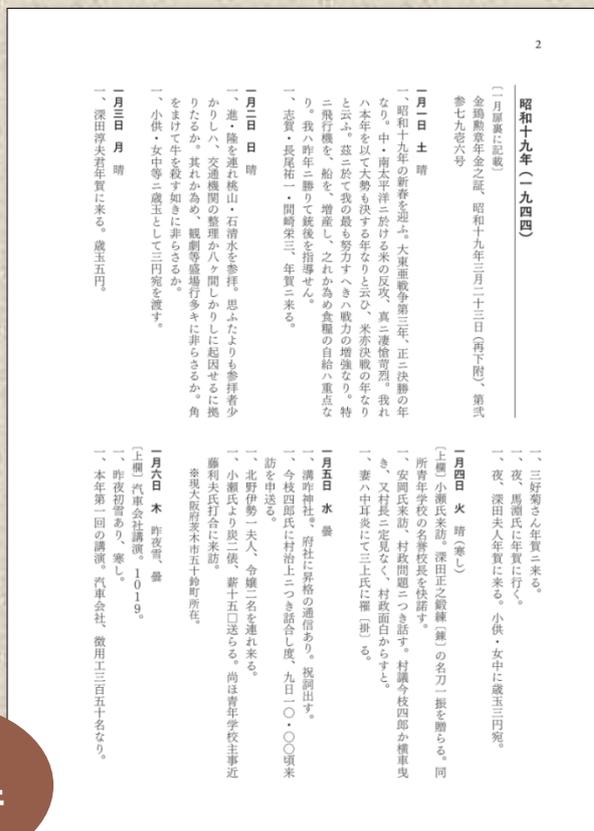
太平洋戦争末期から戦後まもない時期にかけて残された陸軍少将岡原寛(ゆたか)の日記には、大本営発表に一喜一憂し、大阪大空襲を民衆覚醒の契機ととらえ、八月一五日の悲憤や、戦後「国体護持」への思いが吐露されるなど、国民の指導者たらんとした高級軍人の認識と暮らしぶりが克明に刻まれる。軍需工場や農村の若者を「感激の渦中」に没入させた講演速記録を日記とともに収録する本書は、講演によって銃後をささえた軍人の歩みと思想から、極限の時代を再照射する。有志による十年におよぶ研究会の中でひろわれた日記内の人名は400名にのぼる。関西から広く西日本の銃後を支えたネットワークとその実相を浮かび上がらせる。

本文見本

岡原寛(おかはら ゆたか)

1880年、愛媛県南宇和郡平城村に生まれる。三歳の時、父の死去にともない家督を相続。愛媛県立松山中学校卒業。進路については授業料のかからない師範学校か士官学校で迷ったが、結局軍人の道を選び1901年に士官学校入学。日露戦争での奉天会戦で負傷し、軍功を認められて功四級金鵄勲を受勲。第31旅団副士官として釜山に。その後、いくつかの勤務地を経て、1923年中佐。1925年より、広島高等師範学校に配属士官として勤務。時に浄瑠璃の名文句も入れたユーモアに富んだ軍事学の授業と情け深い人柄で慕われたという。第五〇聯隊の聯隊長として、第一次上海事変に出動、すぐに満洲に転戦する。反満抗日に転じた馬占山(元満洲国軍政部長)の追跡・掃討戦を指揮。日露戦争と満洲での戦争において、国民の注目を集めた大きな舞台上で活躍した。1933年に少将。翌1934年に予備役。翌1935年、現在の大阪豊中に転居。昭和10年代より、千回を越える数々の講演を行ったとされる。1942年より大阪府翼賛壮年団副団長。1947年死去。

著：岡原寛 監修：小田康徳
協力：ピースおおさか



2023年
8月刊行

ProductID : KP00083038

ISBN : 9784910993201

電子版ISBN : 9784910993249

同時アクセス1 : 13,200円 同時アクセス2 : 26,400円 同時アクセス3 : 39,600円 (いずれも本体価)

ユン ジャウオン
尹紫遠全集

著：尹紫遠 編：宋恵媛

<内容>

朝鮮「解放」前後の壮絶なる日本—朝鮮半島間の移動経験。戦後を生きた在日一世の日記、初公開！1945年以降に引かれた「朝鮮—日本」、「北—南朝鮮」(38度線)という新たな2つの「境界線」を自らの足でこえた忘れられた在日朝鮮人作家の戦後日記から浮かぶ数多の経験と思い。

<情報>

金素雲訳編『朝鮮詩集』(岩波文庫)の解説者として世に知られる、朝鮮人作家、尹紫遠(ユンジャウオン、1911-1964)。1942年、朝鮮人初の短歌集を刊行した人物でありながら、戦後の歩みはこれまで注目されたこともなく、その存在は今ではほとんど忘れ去られている。日本出身の妻と暮らした尹紫遠の戦後の日記には、「密航」・親族離散・朝鮮人差別・生活苦・文化交流、そして戦後日本で在日朝鮮人が「書く」営みの困難さを伝える断片的記述に満ちていた。様々な在日朝鮮の人たちの声を拾ってきた研究者の解説とともに、日記は豊かに「在日」の経験を現代に語りだす。

1942年というまさに戦争の最中、金素雲の勧めもあり、「朝鮮最初の歌集」と銘打たれ、「魂の哀鴻史」と評された自伝的短歌集『月陰山』(タルウムサン)、1946年夏に発生した南朝鮮でのコレラの流行により強化された連合軍と日本による朝鮮人管理・海洋警備を背景に、玄海灘を命懸けで渡る人々を描いた「密航者の群」など、確認できる全ての作品・随筆・日記を揃えた『尹紫遠全集』の電子版(KinoDen)を刊行します。全集末尾に、編者宋恵媛による全編解説付。

<著者紹介>

尹紫遠/ゆんじゃうおん (本名：尹徳祚：ゆんとくちよ)

1911年、朝鮮半島蔚山に生まれる。幼い時に朝鮮総督府の土地調査事業により一家は土地を失う。書堂(漢文を中心とした私塾)と植民地下の初等教育を受ける。13歳の時、長兄を頼り単身横浜へ。1942年の時に自伝的短歌集『月陰山』を刊行。徴用を逃れるため1944年に朝鮮半島北部へ(現在の北朝鮮、松林市)。日本軍の武装解除のため米ソ軍の分割占領ラインとして引かれた38度線をこえ南朝鮮へ移動。「解放」後の混乱する南朝鮮を目の当たりにし、同時代の多くの朝鮮人がそうしたように日本への再渡航を決意。1946年に蔚山から日本へ「密航」。山口県にたどり着く。戦後日本で小説家を志す。1947年5月、金達寿、金元基、李殷直らとともに在日本

朝鮮文学者会を結成し短期間であるが責任者を務める。東京にて朝鮮国際タイムス社勤務、行商などを経て、クリーニング店を妻と経営。戦後の著書に『38度線』(早川書房、1950年)がある。日韓国交樹立の前年、戦後は一度も故郷の土を踏むことなく、1964年に死去。混乱の時代に玄海灘に沈んだ朝鮮同胞の思いを胸に、死の間際まで自身の壮絶な越境の経験と、その背景になった時代状況を書こうとした。

出版年月：2022年12月
電子版ISBN：9784910723402
ProductID：KP00073323

同時アクセス数1：60,000円
同時アクセス数2：82,500円
同時アクセス数3：99,000円

